

ミーティングの 10のステップ



子どもたちとつくるミーティング（サークルタイム）を、10のステップに分けて詳しく見ていきます。
園で取り組む際には、まずは1つずつ、ステップを踏みながら進めていきましょう。
『保育ナビ』の毎月の連載では、現場の先生方からの疑問に、ステップごとに青山先生が答えています。
本資料と併せて、ご活用ください。

ステップ概要

ステップ0

本音を出せる環境があるか

ステップ1

集まる

ステップ2

耳を向ける

ステップ3

声を出す

ステップ4

傾聴する

ステップ5

話す

ステップ6

会話する

ステップ7

考える

ステップ8

意見を出す

ステップ9

考え合う

ステップ10

そしてまた暮らしへ

ステップ7

考える

●「1人ミーティング」でイメージトレーニング

示された話題について、自分のこととして感じ、考えていく。そのポイントは、「具体的・個別的な事柄を、みんなで考えられる問いに置き直す」です。

例えば、〇〇ちゃんと△△くんがけんかした。この具体的・個別的な事柄を、「みんなで考えられる問い」に置き直す必要があります。

けんかの詳細を延々と聞き続けるのではなく、どこかのタイミングで、「じゃあ、みんなならそんな時、それぞれどうする？ どう思う？」という話題に変えて、投げかけます。

例えば、物の取り合いでいざこざになった時、自分ならどうするのか。別の物を持ってくる？ 諦めてほかの遊びをする？ けんかする？ 同じ物を作る？

いろいろ考えられますが、他者の経験をもとに、自分ならどうするのかを考えるということです。そのために保育者は、「個別的な事柄」→「普遍的な問い」へ置き換えて投げかけなければいけないのですが、私も初めのうちはここがうまくいきませんでした。

そこで自分で練習問題を100問くらい作ることにしました。大学ノートの1ページに鉛筆で縦線を引いて、左側に、保育の現場でよく起こりうる事柄（具体的・個別的な事柄）。右側に、その事柄から抽出されるであろう問い（普遍的な問い）を書きます。そして、イメージトレーニングというか、架空のミーティングを1人で地味にコツコツしてみました。

すると実際のミーティングでもだんだんと、「変換」がぱっとできるようになっていきました。

左側の実例はなんでもよくて、保育の日常の中で起こりそうなあれこれを書いてみます。

- ・トイレに行きたいけど、つい我慢しちゃう
- ・朝、お母さんとけんかしてきた
- ・ザリガニ2匹捕まえないのに、捕まらない
- ・みんなで、おれの家遊びに来てほしい
- ・ピーマン食べられない
- ・砂場で作った山を壊された
- ・〇〇くんの隣に座りたいのに、ヤダって言われた などなど

これを「変換」する。

よかったらやってみてください。